

第一章 こじき

1537年、同じ日にロンドンで二人の男の子が生まれました。

トム・キャンティは貧民の貧しい家庭に生まれました。

彼らはロンドンブリッジ近くの貧しい地域、プディングレーンのそばの一部屋に住んでいました。

「また子どもか」とトムの父親はその赤ん坊を見ると言いました。

「食べさせなきゃならねえもう一つの口だな」

彼は喜んでいませんでした。

誰もトムを望んでいませんでした。

もう一人の赤ん坊はウェールズ公、エドワード・テューダーでした。

彼の父親はイングランド王、ヘンリー8世でした。

彼らはウェストミンスター宮殿に住んでいました。

「王子が生まれた！ ハンサムな王子が生まれたぞ！」とウェストミンスター宮殿の皆が叫びました。

「花火とうたげで盛大なお祝いをしよう。私の息子が生まれたのだ！」と国王は幸せそうに言いました。イングランド中が喜び、赤ん坊の王子の誕生を祝いました。

13年後、トムはロンドンの路上でお金を乞うていました。

トムの服は古くて穴だらけで、彼は靴を履いていませんでした。

トムは痩せて汚れていました。

トムは母親、祖母、そしてベットとナンという二人の姉と住んでいました。

子どもたちはベッドを持っておらず、冷たい床で眠りました。

彼らはいつもおなかをすかせていました。

トムの父親であるジョン・キャンティは、仕事を全くしませんでした。

彼は一年中毎日トムを物乞いに行かせました。

人々は時々トムを気の毒に思い、少しのお金をあげることがありました。

しかしトムは何ももらえないこともありました。

トムが家にお金を全く持ち帰らなかったときには、父親はトムを殴りました。

「俺はいつも貧乏なんかでいたくない」とトムは思いました。

「俺は読み書きを学びたいんだ、そして世の中について知りたいんだ」

アンドリュー神父は親切な白髪の老神父でした。

彼はトムの友達で、同じ建物に住んでいました。

「俺を手伝ってくれるかい、アンドリュー神父？」とトムは尋ねました。

「俺は読み書きを学びたいし、ちゃんとした英語を話したいんだ、王子たちや偉い人たちみたいにな」

「私が手伝ってあげるよ、トム」とアンドリュー神父は言いました。

「毎日私の部屋に来なさい」

アンドリュー神父はトムに読み書きを教え、そしてラテン語を教えました。

彼はトムに国王や王子の物語を語りました。

トムはすぐに学び、程なくしてアンドリュー神父の本を読みました。

夜には、トムはそれらの本の中の人々についての夢をよく見ました。

他の少年たちといるとき、トムは王子になって遊ぶのが好きでした。

他の少年たちはトムのことを笑い、彼をトム王子と呼びましたが、彼らはトムのが好きでした。

少年たちは泥の中で跳ね、川で泳ぎました。

ある日、アンドリュー神父が言いました。

「トム、ウェストミンスター宮殿に行って本物の王子を見たらどうだい？ エドワード王子は国王の息子だ。きっと宮殿で王子を見ることができるだろうよ」